

## 広州モーターショーで新型電気自動車『エアトレック』を世界初披露

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）の中国における生産・販売合弁会社である广汽三菱汽车有限公司（以下、广汽三菱）は、広州モーターショー\*1においてSUVタイプの新型電気自動車（EV）の新型SUV『エアトレック』を世界初披露（参考出品）しました。

\*1：正式名称は第十九届广州国际汽车展览会。

会期は11月19日（金）～11月28日（日）まで。11月19日（金）はプレスデー、20日（土）～21日（日）はジャーナリストデー、22日（月）～28日（日）は一般公開日です。会場は中国进出口商品交易会展馆 CHINA IMPORT AND EXPORT FAIR COMPLEXで開催されます。



新型『エアトレック』

新型『エアトレック』は“Electric（電気自動車の「電気」）”“Expanding（カーライフの「拡張」）”“Expressive（三菱自動車らしさの「表現」）”という3つのキーワードからなる「e-cruising SUV」というコンセプトを元にデザインしました。フロントフェイスの「ダイナミックシールド」やテールゲートの六角形モチーフに代表される一貫した三菱自動車のデザインアイデンティティを取り入れ、機動力があり安定性が高い三菱自動車らしい走り表現するスタイリングとしました。

インテリアは、開放感があり前方の視界がよく運転姿勢がつかみやすい水平基調のインストルメントパネルを採用。人が触れる部分にソフトパッドを採用して質感を向上、ステッチを細部にまで多用するなど、高級で上質な居住空間を実現しました。また、ロングホイールベースと幅広い全幅により、ゆったりと家族で過ごせる広々とした室内空間としています。

EVコンポーネントとしては、70kWhの大容量の駆動用バッテリーを搭載し、最大約520km（中国 CLTC 基準）\*2の航続距離を実現。フロア中央に搭載することで、

低重心で理想的な前後重量配分としています。軽量高剛性なボディに、モーター、インバーター、減速機を一つの軽量コンパクトなユニットにし、出力とトルクを向上させた駆動システムと組み合わせ、電気自動車ならではの力強く滑らかな走り、キビキビとした操縦性を一層際立たせています。

\*2：中国独自の自動車排ガス試験走行サイクル

当社社長加藤隆雄のコメント

「新型『エアトレック』は、電気自動車を柱とする新エネルギー車によって環境対応を加速させる中国に向けた三菱自動車からの提案です。走行中のCO2排出量ゼロのEVでありながら、最大約520kmの航続距離を実現しています。車名の由来には自由に冒険をするという意味が込めてあり、その名の通りアクティブなカーライフを是非お楽しみいただきたいと思います。」

【 广汽三菱汽車有限公司の概要 】 2021年10月末現在

設立/営業開始：2012年9月25日

所在地：中国 湖南省 長沙市

資本金：19.47億元（広州汽車：50%、三菱自動車：30%、三菱商事：20%）

主要役員：董事長（会長）陳茂善 總經理（社長）一木雅実

工場生産能力：27万台/年

敷地面積：GMMC本社（含む販売支社）93.4ヘクタール  
開発センター 36.6ヘクタール

従業員数：3167名

販売会社数：265社

生産車種：『ASX（日本名：RVR）』、『アウトランダー』、『エクリプス クロス』

以 上